

評価者	経営企画部長	比留間 彰
-----	--------	-------

◎ 評価対象分野・施策の方針

総合計画上の位置付け	分野	文化	施策の方針	文化活動の支援・推進
目標とすべきま ちの姿	文化活動の場や機会の提供、市民の自主的文化活動や若い世代への文化活動の支援、さらに、文化施設等の連携や、市民・事業者・NPO等の連携によりさらなる文化活動の推進が図られています。 文化施設は、鎌倉市公共施設再編計画基本方針に基づき整備され、文化資源が適切に整理・保存・活用されています。			

1 市民意識調査結果

(1) 認知度

取組を知らない・わからないと答えた人の割合	平成26年度	20.4%	平成27年度	18.9%	(回答者全体に占める割合)
-----------------------	--------	-------	--------	-------	---------------

(2) 妥当性

仕事 の 効果	お金の使い方			仕事 の 効果	お金の使い方		
		使いすぎ	ちょうどよい		足りない		使いすぎ
必要以上の効果	6.4%	1.0%	0.0%	必要以上の効果	4.3%	1.4%	0.0%
ちょうどよい	8.8%	36.2%	3.5%	ちょうどよい	10.3%	39.5%	0.7%
効果不十分	14.0%	2.1%	3.5%	効果不十分	10.9%	4.1%	3.7%

平成26年度

平成27年度

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

**<妥当性の分析>**  
 お金の使い方、仕事の効果ともに「ちょうどよい」と答えた割合が平成27年度は39.5%と、選択肢の中では最も多くなっている。次に多いのはお金を使いすぎ・効果不十分の10.9%、3番目に多いのはお金を「使いすぎ」・効果は「ちょうどよい」の10.3%であり、市民意識では半分弱の方がお金の使い方を「ちょうどよい」と考える一方、お金を「使いすぎ」としているとも考える方も25%程度いることが分かる。  
 お金の使い方と仕事の効果両面が「ちょうどよい」と答えている人の割合は、施策の方針等全54件の中では半分程度であるが、経年的には改善が見られる。

(3) 今後の進め方

	もっと力を入れるべき	現状のままで良い	力を入れなくて良い	無回答	全体
平成26年度	11.1%	46.5%	15.4%	27.0%	100.0%
平成27年度	9.9%	52.5%	12.0%	25.6%	100.0%

2 内部評価

(1) 平成27年度の目標

指定管理者との連携により、各文化施設の適正な管理運営を図るとともに、市民等のニーズを踏まえ、事業の充実を図る。鎌倉芸術館の大規模修繕の実施に向けPFI事業の導入を進める。  
市民文化祭参加者の負担の見直し等、文化事業の手法の検討をするとともに、市民の文化活動の活性化を図るための事業を実施する。

(2) 事業評価結果一覧表(網掛けは重点事業)

整理番号	評価対象事業名 事業名	決算値(千円)		総事業費(千円)		職員数(人)		今後の方向性	
		平成26年度	平成27年度	平成26年度	平成27年度	平成26年度	平成27年度	事業内容	予算規模
経企-22	文化行政推進事業	7,483	7,790	21,143	22,983	1.8	2.0	a	C
経企-23	川喜多映画記念館等管理運営事業	37,138	36,591	43,209	41,909	0.8	0.7	b	A
経企-24	鎌倉芸術館管理運営事業	373,985	303,976	388,404	324,487	1.8	2.7	a	A
経企-25	美術館建設準備事業	2,170	2,170	2,929	2,930	0.1	0.1	b	B
経企-26	鏑木清方記念美術館管理運営事業	46,559	46,574	51,871	51,892	0.7	0.7	b	A
経企-27	文学館管理運営事業	71,059	72,158	76,371	77,476	0.7	0.7	b	A

**(3) 主な実施内容**

<p><b>【主な実施内容】</b>                  指定管理者との連携により、各文化施設の適正な管理運営を図るとともに、市民等のニーズを踏まえ、事業の充実を図った。(経企-23・24・26・27)                  鎌倉芸術館の大規模修繕の実施に向けPFI事業の導入を進めた。(経企-24)                  市民文化祭参加者の負担の見直し等、文化事業の手法の検討をするとともに、若い世代が自ら企画、制作した文化・芸術に親しむことができる事業を旧和辻邸で開催するなど、市民の文化活動の活性化を図るための事業を実施した。(経企-22)</p> <p><b>【実施できなかった事業とその理由等】</b>                  鎌倉芸術館の大規模修繕の実施に向けたPFI事業は、事業者を公募したものの、応募事業者がいなかったため、中止となった。(経企-24)</p>
--

**(4) 平成27年度の取組の評価**

効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 要改善
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 要改善
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	<input type="checkbox"/> 適切	<input checked="" type="checkbox"/> 要改善
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	<input type="checkbox"/> 適切	<input checked="" type="checkbox"/> 要改善
<p><b>&lt;上記評価の理由、改善を要する点の具体的内容等&gt;</b>                  各文化施設の事業の縮小による事業費の削減余地の可能性はあるものの、現事業の費用としては適正であると判断しているため、「効率性」を「適切」とした。                  各文化施設で実施される各事業の充実、適正な管理運営を図るため、指定管理者と定期的に協議を行った。                  平成27年度の鎌倉文学館、鏑木清方記念美術館、川喜多映画記念館の来場者数はそれぞれ過去最高を記録した。                  市民文化祭の見直しを進める一方、若い世代の文化活動の顕彰、芸術文化活動支援を実施した。                  鎌倉芸術館の大規模修繕の実施に向けたPFI事業が中止となったため、「有効性」を「要改善」とした。                  各文化施設の運営費を考慮すると受益者負担が低いため、「公平性」に改善の余地があると考え「要改善」とした。</p>			

**3 評価結果や市民意識調査結果をふまえ、施策の方針等としての、今後の方向性**

<p>各文化施設の適正な管理運営を図るとともに、指定管理者との連携により各施設の特性に合った事業の充実を図る。                  鎌倉芸術館の大規模修繕を進め、効率的な管理運営を図る。                  文化事業の効率的かつ効果的な手法を検討するとともに、市民の文化活動の活性化を図っていく。</p>
--

**4 平成28年度の目標**

<p>指定管理者との連携により各文化施設の適正な管理運営を図るとともに各施設のネットワークを強化し、市民や観光客が鎌倉の様々な文化を体感することができる環境を整え、市民等のニーズを踏まえた事業の充実を図る。                  鎌倉芸術館の大規模修繕を進める。                  市民文化祭参加者の負担の見直し等、文化事業の手法の検討をするとともに、市民の文化活動の活性化を図るための事業を実施する。                  旧和辻邸の活用などにより、若い世代が自ら企画、検討した文化・芸術に親しむことができる事業の発表の場を設ける。</p>
---

**5 主な事業における指標(目標ごとに1つ)**

整理番号	経企-22	事業名	文化行政推進事業					単位	人	指標の傾向	↗	備考
指標の内容	観覧者数等(年間)											
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31					
より多くの市民等に文化芸術に親しんでもらうため。	目標値	29,500	29,500	29,500	29,500	29,500	29,500					
	実績値	42,481	43,281									
	達成率	144.0%	146.7%									
整理番号	経企-24	事業名	鎌倉芸術館管理運営事業					単位	%	指標の傾向	↘	備考
指標の内容	施設利用率											
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31					
鎌倉市の芸術文化の拠点である鎌倉芸術館の機能を十分に発揮できるようにするため。	目標値	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0					
	実績値	90.5	88.0									
	達成率	106.5%	103.5%									
整理番号	経企-26	事業名	鏑木清方記念美術館管理運営事業					単位	人	指標の傾向	↗	備考
指標の内容	来館者数(年度)											
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31					
より多くの市民等に施設を利用してもらうため。	目標値	28,500	25,000	25,000	25,000	25,000	25,000					
	実績値	22,272	29,737									
	達成率	78.1%	118.9%									

整理番号	経企-27	事業名	文学館管理運営事業					単位	人	指標の傾向	↗	備考
指標の内容	来館者数(年度)											
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31					
より多くの市民等に施設を利用してもらうため。	目標値	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000					
	実績値	110,046	112,066									
	達成率	110.0%	112.1%									

**参考 前年度外部評価結果への対応**

<p><b>鎌倉市民評価委員会からの指摘</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施事業が管理(インフラ整備)についてのみであり、運営(サービス提供)についての取り組みがみられない事業が見受けられる。</li> <li>・市民による文化活動の推進にもっと力点を置くべきである。</li> <li>・新たな文化の創造の視点から事業の見直しが必要と考える。</li> <li>・文化活動だけを取り上げているが、ほかの市民活動との関係、連携を強化し、新たな文化の創造、さらなる文化活動の推進を図る必要があるのではないか。</li> <li>・平成26年度事業実施にあたっての課題と取組、平成27年度の未解決の課題が全て一緒であることから、何ら実績が認められない。</li> </ul>	⇒	<p><b>指摘への対応、コメント等</b></p> <p>川喜多映画記念館・鎌倉芸術館・鏑木清方記念美術館・鎌倉文学館では、それぞれの特性に応じた様々な文化事業が指定管理者により実施されている。川喜多映画記念館では映画資料等の展示や映画上映を実施し、鎌倉芸術館では優れた芸術文化鑑賞事業等を実施している。</p> <p>また、鏑木清方記念美術館では鏑木清方作品の展示や講演会等を実施し、鎌倉文学館では鎌倉ゆかりの作家等に関する展示やワークショップ等を実施している。</p> <p>市民の文化活動を推進するため、文化活動の発表の機会となる市民文化祭を実施しているが、今後も更なる推進を図るため、文化施設指定管理者と連携、協議をしながら、市民の文化活動の支援策や参加型文化事業の実施等について検討していく。</p> <p>古民家での新たな文化発信方法として、旧和辻邸では若手による文化イベントを実施しているが、今後も鎌倉市文化推進プラン21の視点を持ちながら、新たな文化の創造、発信が図れるよう検討していく。</p> <p>川喜多映画記念館、鏑木清方記念美術館、鎌倉文学館では市民との協働を指定管理業務に盛り込んでいるが、特定の分野の市民団体に偏らないよう、指定管理者と連携、協議を行い、事業の多様化を図っていく。</p> <p>市の厳しい財政状況の中、美術館の整備や旧前田邸の活用については解決策が見出せていない。今後も関係部署と連携を図るなど、課題解消に向け引き続き検討を重ねていく。</p>
--	---	---

## 鎌倉市民評価委員会の評価

### 《評価できるところ》

- ・文化施設の管理運営が指定管理により適切に運営され、市内文化施設の利用状況が向上した。
- ・若い世代が自ら企画制作した文化・芸術に親しむ事業を開催した。
- ・平成27年度の鎌倉文学館、鏑木清方記念美術館、川喜多映画記念館の来場者数はそれぞれ過去最高を記録している。(全国的にどの集客系施設も同様に増加している背景がある。)市民サービスの向上と効率的運営のために、指定管理者制度の積極的な活用が行われている。

		評価の内訳				⇒	委員会の評価
取組	↗	3	↘	0	→		5
効果	○	2	△	0	-	6	-

### 《課題》

- ・鎌倉にふさわしい文化芸術の創造・発信の支援を改めて考えていくことが求められる。鎌倉らしい「文化」としてバックアップするような施策が見えない。
- ・PFI事業の不調のような案件について、今後同じような事が起きた際にはどのような動きを取るべきか、あらかじめ最低限のことだけでも検討しておくことが求められる。
- ・指定管理者との連携により各施設の特性に適った事業となっているかどうかかが問題である。
- ・文化施設の受益者負担は利用者へしっかりと説明し理解を得ることが求められる。
- ・目標などに具体性が見られない。

### 《提言》

- ・若い世代が、文化活動したり鑑賞できる文化的環境を充実させてほしい。
- ・鎌倉芸術館のPFI事業の不調は残念であるが、施設の修繕は待ってくれないので、新たな方法を含め、積極的に取り組んでいただきたい。合わせて、不調の理由をきちんと分析し、今後の運営に対して影響がないように努めてほしい。
- ・文化施設の来場者の中に観光客の割合が示されていないが、来館者数、観覧者数は観光客の増加に伴って増加しているとも考えられるので、観光部門との連携を図りながら活用方向を検討してほしい。
- ・寄付された旧前田邸について、具体的活用方法が定まっていないとあるが、庁内公募ではどのような案があったのか。効果的な利用策について広く市民に改めて公募する等、検討すべきである。
- ・美術館構想はどうなったのか？構想だけで止まっている。美術品の管理にはお金がかかりすぎている。その必要性を含めて再検討すべきである。
- ・文化施設活用以外の文化活動、とりわけ〈現代ならではの文化活動〉の振興に注力すべきである。
- ・人を集める施設なので、観光事業と一体的に進めるべきである。